分布：全国

ツルボ　（ キジカクシ 科）

学名：*Barnardia japonica*（バルナルディア ヤポニカ）

蔓 穂　　別名：ツルボウ，スルボ，サンダイガサ（参内傘），スミラ

主な生育場所

田畑の畦畔，畑，樹園地，山野，路傍，堤防，河原など日当たりの良い草地に見られる。沿海部の崖部にも生育する。公園内や人家の庭先の芝生内にも見られることがある。墓地に咲くことも多い。

名前の由来：はっきりしないが，群生し穂が連なって咲く様子から，連穂（つれぼ）が転化したとも。別名の参内傘は，公家が宮中に参上する際に使った柄の長い傘の閉じた様子の連想から。

特 徴

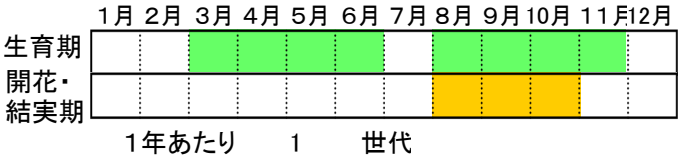
主に鱗茎で増殖する多年草。鱗茎は黒褐色で2～3cmほどの卵球状。線形で長さ10-25cm，表面が浅くくぼんだ無毛の葉は春と秋の2回出る。春に出る葉は5花茎が伸びる前に枯れる。8-9月に20-40cm程度伸ばした花茎の先に径7mmほどの淡紅紫色，稀に白色の多数の小花を総状につける。花披片は6枚で6本の雄しべは長い。

＜農業との関係＞

鱗片や種子で増殖し，芝地や牧草地，果樹園で害草となることがあるが，盛夏には葉がいったん枯れてしまうので，気になることは少ない。畦畔などに群生すると花期にはそれなりにきれいであるため，意識して刈り残す場合も多い。春と秋の新葉が出る前に草刈りを終えると毎年花を楽しむことができる。

6枚の花披片は平開する。

＜生活史＞　関東 地方の例(目安)



＜類似種＞

海岸部には全体がより大型で葉の幅も10～20mmと広い変種のハマツルボがみられる。ヤブランは林床など日陰に生え，葉の枚数は多く，葉色も濃い。

花茎の下方についた花から咲いていく。

＜一言うんちく＞

ツルボもヤブランもかつてはユリ科に属していましたが，DNAの塩基配列情報に基づく最新の分類体系では，アスパラガスなどを含むキジカクシ科に移ってしまいました。新たな分類体系下で旧来のユリ科は大きく解体され，キジカクシ科やヒガンバナ科など８つに分かれてしまいました。

＜人との関わり合い＞

ツルボの鱗茎にはデンプンが多く含まれ，外皮を向けば食料となるため，かつては飢饉時の救荒植物として利用されてきた。小さな鱗茎は皮をむいてそのまま食べることができ，大きなものは割って，塩を入れた熱湯でよく茹でた後，塩や砂糖で味付けして食べる。花や葉も茹でて，サラダにしたり，炒めて食べる。また，鱗茎をすり下ろしたものをガーゼに塗布して湿布とすれば，腰痛や打撲傷，腫れ物の吸い出し，初期の乳腺炎などに効果がある。

＜俳句や短歌への登場＞

【季語：初秋】 ※同じごろに咲く彼岸花と比べて，少々地味なせいか，詩歌に取り上げられることは少ないようだ。

くさはらの中よりひとり背のびするツルボむらさき来ていたる秋 （鳥海昭子）